

令和3年度 学校評価・学校関係者評価書

学校名	稲美町立母里小学校
-----	-----------

1 学校運営の目標・方針

「自ら学び、こころ豊かに、たくましく生きる子ども」の育成をめざして
～ 自分自身の力で、「心と体の横っこ」を深く太く張れる子に ～

2 本年度の重点目標

1. 「確かな学力」と「個性」を伸ばし児童自ら学ぶ喜びと充実感が持てる学校を築く。
2. 教師自らが常に学び続ける姿勢を持ち、人として美しくあることに努める。
3. 教師と児童の心のふれあいを大切に、秩序ある中でゆとりと潤いのある学校を築く。
4. 地域社会や家庭が各々教育機能を発揮しつつ、連携を密にした開かれた学校を築く。

4 総合的な学校関係者評価

・学校運営の目標、方針、並びに本年度の重点目標は、分かりやすく、イメージ化しやすいものだと思う。
・時代の流れで、ホームページやメール等を活用されている保護者が多くなってきている。ホームページの充実させ、情報発信に活用していただきたい。
・コロナ禍で、子ども同士楽しく会話したり、遊んだりすることが自由でなくなった。そのような中、先生方には、感染予防に気を配りながら、いろいろな活動を進めていただいた。ご苦労が多かった一年だったと思う。
・新型コロナの感染が、現場を難しくしている。臨機な対応も要求され、混乱もあったと思うが落ち着いた学校経営ができていたのではないかと。このような危機的状況の中で、多くを望むことは本来の目的を見失うことでもあり、決定事項の順守を、学校職員が丸となって行うことが肝要である。先生方が、子どもたちともっとゆっくり向き合えて楽しめることが大前提であると思う。ボランティアの協力をもっと利用し、先生方の負担を減らし、地域+学校+家庭が連携することで、学校目標・方針の達成に近づくとと思う。

- 3 学校自己評価結果 A:十分達成している。(そう思う) B:おおむね達成している。(ややそう思う)
C:どちらかというと達成されていない。(あまりそう思わない) D:ほとんど達成されていない。(そうは思わない)

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学校運営	学校教育目標や学校経営方針を教育活動に反映し、日々の教育活動を学校だより・学級だより・ホームページ等で分かりやすく伝えている。	B	学校通信「くすのき」には、学校経営方針や教育に関する所感などを掲載し、校区の皆様に読んでいただいている。各学年だより・各学級だよりも発行し、学校・家庭・地域との連携を図っている。ホームページについては、昨年度に比べて、更新頻度が少なくなってしまった。適時適切な内容で更新できるように、来年度のシステムを構築していきたい。
	学校行事の時期や内容は適切である。	A	今年度も、新型コロナ感染拡大防止の観点から、学校行事の時期や内容の変更・中止を行った。運動会と学習発表会は、演技・演奏時間帯を学年ごとに分け、観覧者への感染防止対策を実施した。保護者や地域の皆様は、学校からの依頼に対して快く協力していただいた。授業参観、家庭訪問、懇談会、PTA行事等の工夫、自然学校や修学旅行の安全な実施等、今後の在り方について検討していきたい。
	清掃が行き届いており、美化に努め、校舎内外の物が整理整頓されている。また、定期的に施設・設備の点検をしている。	A	児童と教師が「もくもく掃除」を合言葉に、限られた時間の中であるが、丁寧に清掃活動を行っている。委員会活動において目標を決め、放送や掲示物によって、掃除の仕方やトイレのスリッパ整理などを呼び掛けている。月1回の安全点検日を中心に、校舎内外の設備等の点検を行い、不具合箇所については、早急に修理や部品交換をし、安全確保に努めている。
	いじめ・不登校問題等への対応は適切で、教職員が一致協力できる生徒指導体制ができています。	A	毎日の職員打合せ時や定例の生徒指導委員会において、支援の必要な児童の情報を全職員で共有している。児童の状況により、ケース会議を開催。保護者へは、経過報告や対応策等を随時連絡し、丁寧な説明に努めている。また、「困りごと(いじめ)アンケート」の分析と事後指導の経過観察、ルーテスタの分析や、道徳の授業を通して、より良い人間関係作りに取り組んでいる。日頃から家庭との連絡を密にし、いじめ・不登校の早期発見・早期対応を心掛けている。
	危機管理マニュアルを作成し適切に運用している。登下校の安全について、点検・指導がされている。	B	危機管理マニュアルを作成し、非常時の教職員の任務を随時確認している。下校時の急な豪雨の対応や、学級閉鎖による児童引き渡しを9回行ったが、保護者の協力により、スムーズに行えた。登下校のトラブルについては、学級担任と地区担任が情報を共有し、当該児童や周囲の児童から事実確認を行い、解決を図った。交通事故防止や危険箇所への対応、不審者対策等について、各学級において、継続して指導している。
教育課程	授業方法を工夫・改善し、分かりやすい授業に心がけている。	B	今年度、「自分たちで学ぶ子どもの育成～タブレットを使った授業づくり～」を研究主題として、各教科・領域の研究授業を行った。児童は、タブレットの使用を重ねるうちに、その技能は徐々に向上し、使いこなせるようになってきた。新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」を充実させるため、来年度も有効な使用方法を研究し、より良い授業づくりに努めていきたい。
	評価(授業評価・学びの姿等)を通して、適切な指導をしている。	B	教師は、発言内容・振り返りシート・評価テスト・ノート点検などを通して、児童の学習状況を総合的に把握し、評価基準に基づいて各学期ごとに評価をし、児童と保護者に伝えている。児童には、努力した点や成長した内容については褒め、今後努力が必要な点については、具体的にどのような学習行動が必要であるかを、児童の成長度合いに合わせて説明し、一緒に学んでいこうと励ましながら指導している。
	子どもに家庭学習(宿題等)や学習準備等の習慣を身につけさせている。	B	全校で学習のきまりを統一し、学習に取り組む準備や心構えを、日々指導している。教師は提出物の締め切りは守られているか、丁寧に学習に取り組んでいるかを確認し、不十分な児童については、家庭との連携を密にし、時間をかけて対応している。児童自らが考えて家庭学習を行えるよう、各学年の発達段階に応じて、家庭と連携しながら取り組んだ。
	体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れている。	B	新型コロナウイルス感染防止対策のため、ゲストティーチャーや学習ボランティア(読み聞かせ(スプーンおばさん)、図書ボランティア、習字ボランティアなど)の回数が減ってしまった。来年度は、感染拡大状況によるが、できるだけ多くの体験学習を取り入れていきたい。
	道徳の授業を大切にし、内容の充実にも努めている。	A	教師は、児童が問題を自分のこととしてとらえ、友だちと話し合いを重ね、自分の考え方や感じ方をより深めるための指導方法を工夫している。授業ごとに、児童の発言や振り返りを記録・蓄積し、児童の学習状況や成長の様子を継続的に把握することに努めている。また、担任同士で交換授業を行い、児童の様子や考え方を、多くの目で捉えることにも取り組んだ。
読書活動を充実させている。	A	全学年で、「朝の読書」を行い定着してきた。また、ボランティアや教師による読み聞かせ、家読等の取組を通して、読書への意欲・関心が高まってきた。また、図書委員会が「スタンプラリー」や「読書の木」など、図書室の利用促進のためのアイデアを考え実施することができた。や引き続き読書活動の充実にも努めたい。	

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

・ホームページは、保護者や地域の方が、学校の活動を知る大切な情報発信源である。コロナ禍で、行事への参加制限が多い中、ホームページが唯一、子どもの様子を知る手段であり、楽しみにしている家庭が多い。各学年の先生方が、その日の様子をアップしてもらえると大変ありがたい。
・学校通信「くすのき」は、学校の状況がよくわかるので、毎号送っていただきありがたい。
・先生方も一緒に掃除をすることで、「先生と一緒にきれいにした！」という気持ちを持つことができているのではないかと。先生にほめられると、「もっときれいにしよう」という気持ちになるそうです。
・電気施設の点検、確認をお願いしたい。
・いじめに関しては、きめ細やかな対応が問われる。児童の何気ない言葉や表情の変化に目配りと対応の確かさが問われる。

・家庭と学校が連携して児童の成長を促せるように、学び、学び合う環境づくりに努めてほしい。
・高学年においては、予習・復習で力をつける。低学年では、丁寧さと反復練習、何度も繰り返すことで、自信をつける。年齢に応じた達成感、特に高学年では、興味関心が広がるので、予習は大きな力となる。
・欠席しても、家庭でタブレットを通して授業を受けることができよかったです。
・コロナ禍で、学校行事が減ることは仕方がないが、児童にとって、様々な経験が減ってしまうのは残念である。コロナの一日も早い終息を願う。
・道徳の授業では、児童が自分のこととして問題を捉えているかが問われる。他人事として考えることのない学びを、授業の縦軸として考えていただきたい。
・コロナ禍でも、児童が差別することなく過ごせているのはありがたい。
・読書は賢い人間を作る。読書欲が芽生えるということは、まさに成長の木を育てていると言える。
・図書委員の企画により、子どもたちが楽しく本を手に取り、読む機会が増えたことはとても良いと思う。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
課題教育	生命の大切さ、共に生きる豊かな心の育成に努め、地域の人々との関わりを通して、実践的な力を培っている。	B	特別の教科 道徳や人権教育を中心に、全ての教育活動を通して、生命の大切さや人権尊重の心を育てている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、夏祭り、クレーン活動、子ども会主催の各種行事等が中止となってしまった。土曜体験学習(3回)は、実施日を変更して行うことができ、防災学習や地元史の歴史について、大人と子どもと一緒に学ぶことができた。保護者や地域の方々と一緒に体験する行事は、児童にとっては貴重な機会であるので、来年度は、感染状況を考慮しながら、感染防止対策を講じて実施できる方法を考えていきたい。	・子どもたちは、親子や地域の方、中学生と一緒に体験活動をするることによって、学ぶこと、感じることが多かったと思う。今後このような機会を増やしてほしい。 ・コロナの感染状況もあるので、あまり無理しない範囲で実施出来るようにと思う。 ・5年生にとって、何より大きな行事が無事実施できたこと。子どもたちにとっていい思い出となった。活動内容も今までの自然学校と同じような活動ができたようで、本当に良かったと思う。 ・自然学校は、日程を変更してでも実施していただき、大変だったと思うが、子どもたちにとってはとてもよい経験ができたと思う。 ・母子小独自の自然体験である田植えや、着付け教室などは、これからも継続して行ってほしい。 ・避難訓練は、定期的に行うことで、子どもたちにも身につけていると思う。訓練のことは、帰宅後いろいろ話をしてくれる。 ・コロナ対応自体、学校の危機管理能力が問われている。そういう意味から言えば、十分対応されていると思う。 ・英語の力については、5～6年前に比べて、たしかに定着してきているのではないかな。 ・英語の授業では、教科の授業とは違う楽しい雰囲気を取り組まれていて、子どもたちの表情も明るく、元気な様子を見ることができた。
	環境体験学習・自然学校等で体験活動を充実させている。	A	コロナの感染状況により、自然学校(5年生)は、5月から11月に日程を変更し、4泊5日で実施することができた。宿泊先と感染対策や活動内容について、何度も打ち合わせを行い、体調不良者は出ることなく、無事に帰校できた。環境体験学習(3年生)は、JAの方々の協力を得て、米作り(田植え・稲刈り)体験を実施した。児童は、しめ縄づくりに挑戦し、総合学習として、農業の大切さや携わる人々の苦労について学ぶことができた。	
	計画的に避難訓練等を実施している。	A	1学期に火災発生、2学期に不審者侵入を想定しての避難訓練を行った。3学期は、地震発生を想定した避難訓練を実施する予定であったが、コロナによる欠席児童の増加により、実施できなかった。最後の訓練時には、休み時間での発生を想定して、自分で事態を把握し避難する体験を行わせることを予定していた。来年度はぜひ実施したい。	
	外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。	A	保護者アンケートでは、昨年度に比べて、「児童が英語活動を楽しみにしている」という割合が増加した。児童が英語学習について、家庭で前向きな話をする機会が増えたのではないかと考える。英語専科教員とALTが協力し、児童が楽しく学ぶ授業の工夫を重ねてきた成果が、少しずつ出てきている。英語の授業が苦手と考える児童も少なからずいるが、英語でのコミュニケーション能力の向上を目指して、引き続き努力したい。	
努力目標	学校では、敬語や正しい言葉遣いができるように指導している。	A	児童には4月に、①挨拶は、「相手の目を見てお辞儀をして、適切な大きさの声でする」と②挨拶は、「いつでも、どこでも、誰にでも、自分から」することを伝えた。今では、登校時の「おはようございます」や、校舎内外での「こんにちは」という自然で素直なあいさつが聞こえてくるようになった。しかし、地域での挨拶ができていないという声もあり、引き続き、家庭や地域と連携して指導して	・先生方があいさつをしてくれることにより、子どもたちからも安心して声を出せる雰囲気が出てきているのだと思う。 ・あいさつは、学校だけの課題ではない。ふだんから、家族間、地域で、どれだけできているかが問題である。 ・『話し合う』という機会をもっといただくことで、子ども同士や先生との信頼関係が生まれていると思う。 ・大人でも難しい課題である『聞く・話す』ことが、学校だけでなく家庭生活の中に位置づけば、誰もが笑顔でいられるのではないかな。 ・話すことの基本は、よく聞くこと。この習慣が学校生活の中で位置付けていることはすばらしい。 ・毎時間の授業において、目標を決め取り組むことで、子どもたちは、達成感や「もったいなくない」と思っていると思う。 ・登校時から体力づくり。外遊びが大好きな人間作り。日々のくらしの中に、体力向上のサイクルを作り上げておくことが大切である。 ・リズムジャンプは、家に帰ってからも、友だちと遊びの中でずるくらい浸透していると思う。
	学校では、友だちと協力し、互いのよさや違いを認め合える学級づくりをしている。	A	教師は、「母子小・学校生活のきまり」をもとに、児童がルールを守り、協力しながら安全に学校生活が送れるように指導している。また、道徳や特別活動の授業を通して、自分の思いを言葉にしてしっかりと伝えること、そして、友だちの言葉をしっかりと聞いて理解し、お互いの考えを尊重する意識を育てている。	
	学校では、人の話をよく聞き、自分の思いを話せるように指導している。	B	『主体的・対話的で深い学び』を実現するために、自分の思いや意見をまとめて、グループで意見交換をしたり、みんなの前で発表する機会を多く設定している。その際は、タブレットの発表機能を活用し、視覚的にも相手の意見を確認できるように工夫している。このような活動を低学年から積み重ねて、声の大きさや話すスピード、使う言葉の選び方などに気を付けて話せる児童を、引き続き育てていきたい。	
	学校では、何にでも興味・関心を持ち、自ら学ぶ意欲を持てるよう指導している。	B	児童には、毎時間、授業の最初に目標を提示し、最後に学びのふり返りをさせることにより、目標が達成できたかどうかを確かめさせている。児童には、タブレットを積極的に利用し、資料を検索したり、データを整理したりすることで、「わかった、できた」という学びの充実感が持てるように、授業づくりを進めている。	
	学校では、運動や食育・健康教育を通して、健やかな体の育成に取り組んでいる。	B	体育では、リズムジャンプを本格的に導入し、基本的な体力の向上と体づくりを図った。感染対策を講じながら授業を行い、その学習の成果を運動会で披露した。タブレットで練習の様子を撮影し、良い点や修正点をその都度確認しながら、技能の向上に生かす方法も積極的に取り入れた。保健では、体の発育・心の健康、けが・交通事故の防止、病気の予防、喫煙・飲酒・薬物乱用等を学習し、健全な心身の育成を図っている。	
<p>自己評価における特記事項</p> <p>① 本年度の重点目標として、1. 「確かな学力」と「個性」を伸ばし児童自ら学ぶ喜びと充実感が持てる学校を築く。 2. 教師自らが常に学び続ける姿勢を持ち、人として美しくあることに努める。 3. 教師と児童の心のふれあいを大切に、秩序ある中でゆとりと潤いのある学校を築く。 4. 地域社会や家庭が各々教育機能を発揮しつつ、連携を密にした開かれた学校を築く、の4点を掲げた。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、児童にとっては心身とも大きな負担となった1年間であったが、保護者や地域の方々のご理解・ご協力のお陰で、コロナ禍での教育活動を進めることができた。 ② 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、県教委・町教委の方針の下、学校行事の中止や延期、内容の変更を行った。運動会や学習発表会、自然学校や修学旅行に関しては、結果的には、児童や保護者には概ね好評であった。しかし、授業参観が1回しかできず、児童の学習の様子を直接見ていただく機会が少なくなりましたことについては、今後の課題である。 ③ 挨拶については、『いつでも、どこでも、誰にでも、自分から』を、機会あるごとに児童に話しかけてきた。1年経って、自分からあいさつができる児童がだんだん増えてきた。家庭や地域にも呼びかけ、大人も子どもも気持ちのよい挨拶ができる地域にしていきたい。 ④ 全国学力・学習状況調査の結果をふまえ、国語・算数の課題を精査し、「確かな学力」を保障する授業づくり、学級経営についての研修、また、タブレット端末の効果的な利用について、来年度も継続して行い、教員のスキルアップを図る。</p>				<p>項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法</p> <p>・来年度も引き続き、児童の健康と安全を第一に考え、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら、教育活動を進めていく。また、感染状況を見極めながら、学校行事の開催方法を考え、保護者や地域の皆さんに、子どもたちの様子を直接見ていただける機会を少しでも作りたい。 ・全国学力・学習状況調査の結果をふまえ、来年度は、国語科では、自分の思いや考えを自分なりのことばと方法で書く機会を保障し、言語活動の充実と思考力・判断力・表現力の育成に取り組むたい。また、一人ひとりの習熟度に合わせて指導方法を工夫し算数の基礎的な計算力向上を図っていく。 ・タブレット端末については、今年度の授業での活用方法や児童の習熟度をふり返り、学校・家庭での学習をより有効なものにするために研修を進める。 ・来年度から町内5小学校区に設置される『学校運営協議会(コミュニティースクール)』を、学校・家庭・地域の連携の柱として運営し、これまで以上に、地域の人材やボランティアの支援を活用し、児童の育成に取り組むたい。</p>